



今回初めて開催された和牛審査競技会で、肉用牛に触れ優劣を見極める参加者

県産牛37頭 発育を競う

由利本荘市で県畜産共進会

農業高生や若手農家ら 初の審査競技会も

第99回県畜産共進会が3日、由利本荘市のあきた総合家畜市場で開かれた。県内生産者が育てた肉用牛と乳用牛計37頭が出品され、発育具合などを競った。最高賞の県知事賞と農林水産省畜産局長賞には、肉用牛で相馬勲さん(仙北市)、乳用牛で新林牧場(由利本荘市)の牛がそれぞれ選ばれた。農業高校の生徒や若手飼育農家らによる和牛審査

競技会も初開催され、25人が目利きの力を競った。共進会では、肉用牛に黒毛和種24頭、乳用牛にホルスタイン種6頭とジャージー種7頭が出品され、月齢や出産の有無などによる計11部門で審査。体高や胸囲を測定した後、審査員が肉付きや体の輪郭の鮮明さ、毛並みの良さ、乳房の発達具合などを採点した。

枝肉の部の審査は11月に秋田市の県食肉流通公社で行われる。

和牛審査競技会は、高校生の部に14人、女性の部に6人、若手後継者の部に5人が出場。15分間で4頭の牛の優劣を答え、正確さを競った。

高校生の部で最優秀賞を受賞した今平結衣さん(増田1年)は「難しかったが勉強した成果が出てうれしい。目利きの力を付けて今後の大会にも生かしたい」と話した。

県畜産共進会は、県やJAなどをつくる運営協議会が、畜産農家の意欲や飼育技術の向上を目的に2年に1度開催している。和牛審査競技会は、担い手育成や和牛への理

解促進を目的に全国和牛登録協会県支部が今回初めて開いた。(本多恒頭)

共進会の優等賞受賞者・団体と審査競技会の最優秀受賞者は次の通り。

- (敬称略)
- 【肉用牛・黒毛和種】▽育成雌8、13カ月▽阿部和仁(由利本荘市)▽若雌14、16カ月▽佐藤匠(大仙市)▽若雌17、19カ月▽佐藤幸輝(由利本荘市)▽若雌20、23カ月▽タカハシ畜産(大仙市)▽
 - 【乳用牛・ホルスタイン種】▽未経産12、21カ月▽新林牧場(由利本荘市)▽経産36カ月未満▽同▽経産36カ月以上▽同
 - 【乳用牛・ジャージー種】▽未経産12、21カ月▽土田雄一(にかほ市)▽経産36カ月未満▽同▽経産36カ月以上▽同
 - 【和牛審査競技会】▽女性の部▽佐藤翔子(ライフストックさとう)▽若手後継者の部▽加藤雄大(由利本荘市)